

サーバの蓄積情報を利用した安否確認システムの提案

後藤 陸人⁺, 渡邊 晃⁺
⁺名城大学大学院 理工学研究科 情報工学専攻

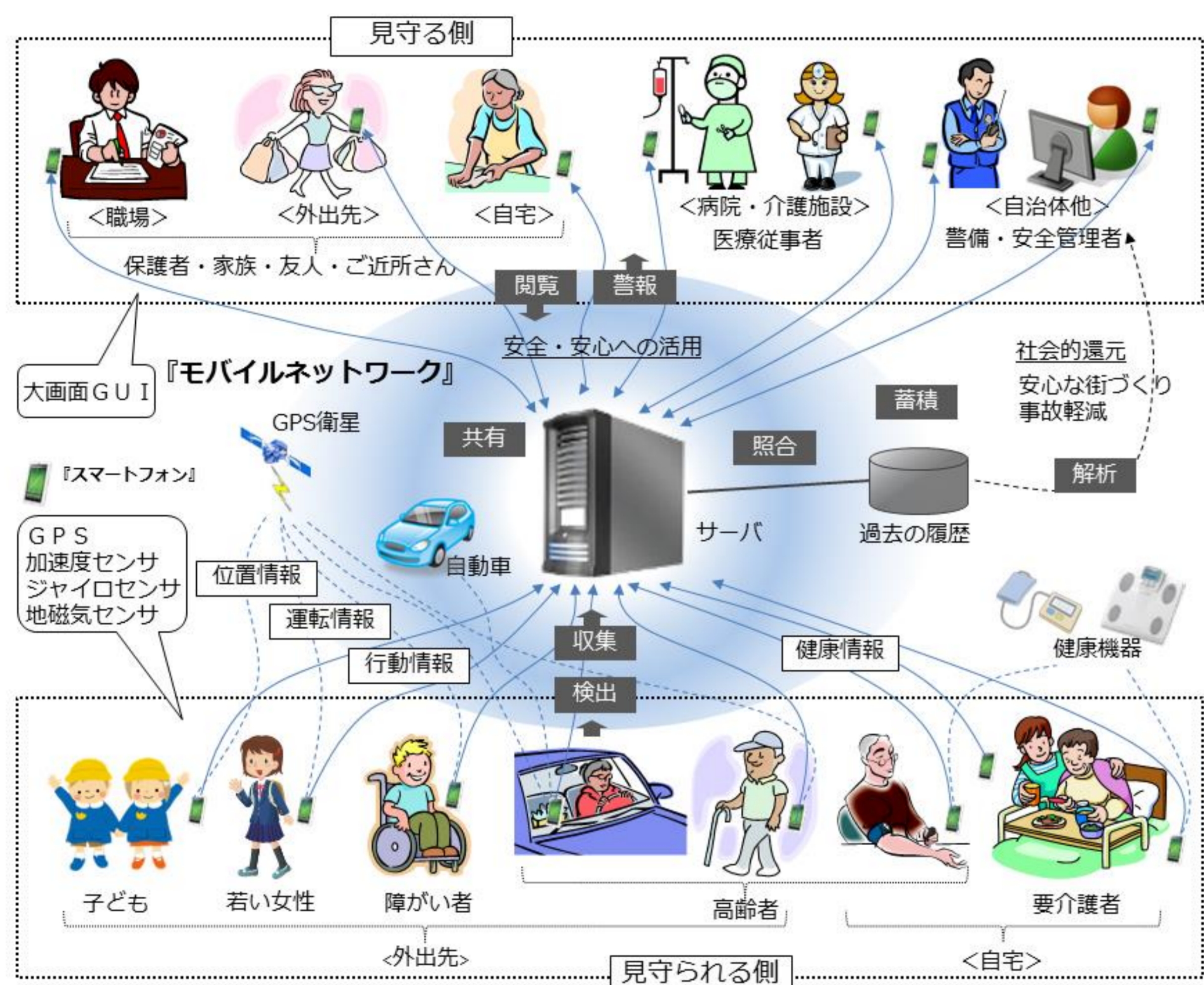


1. はじめに

大災害が発生したとき、人々の最大の関心は、家族の安否確認である。
 しかし、災害発生時には、ネットワークが輻輳状態となり、思うように安否確認ができない。
 そこで、**TLIFES(Total LIFE Support system)**を利用して安否確認を迅速に行う方式を提案している。
 本研究では、災害発生時に自動的に掲示板を立ち上げ、サーバの蓄積情報をもとに、瞬時に家族の位置情報を知ることができる安否確認システムを検討した。

2. TLIFES

TLIFESは、スマートフォンの通信機能とセンサ機能を活用し、ユーザ同士が情報の共有を行う統合生活支援システムである。GPSや加速度センサを用いることで情報を取得する。取得したデータは、2分単位でサーバに蓄積されている。ユーザはセンサ情報を閲覧することにより、**見守りシステム**として利用することができる。



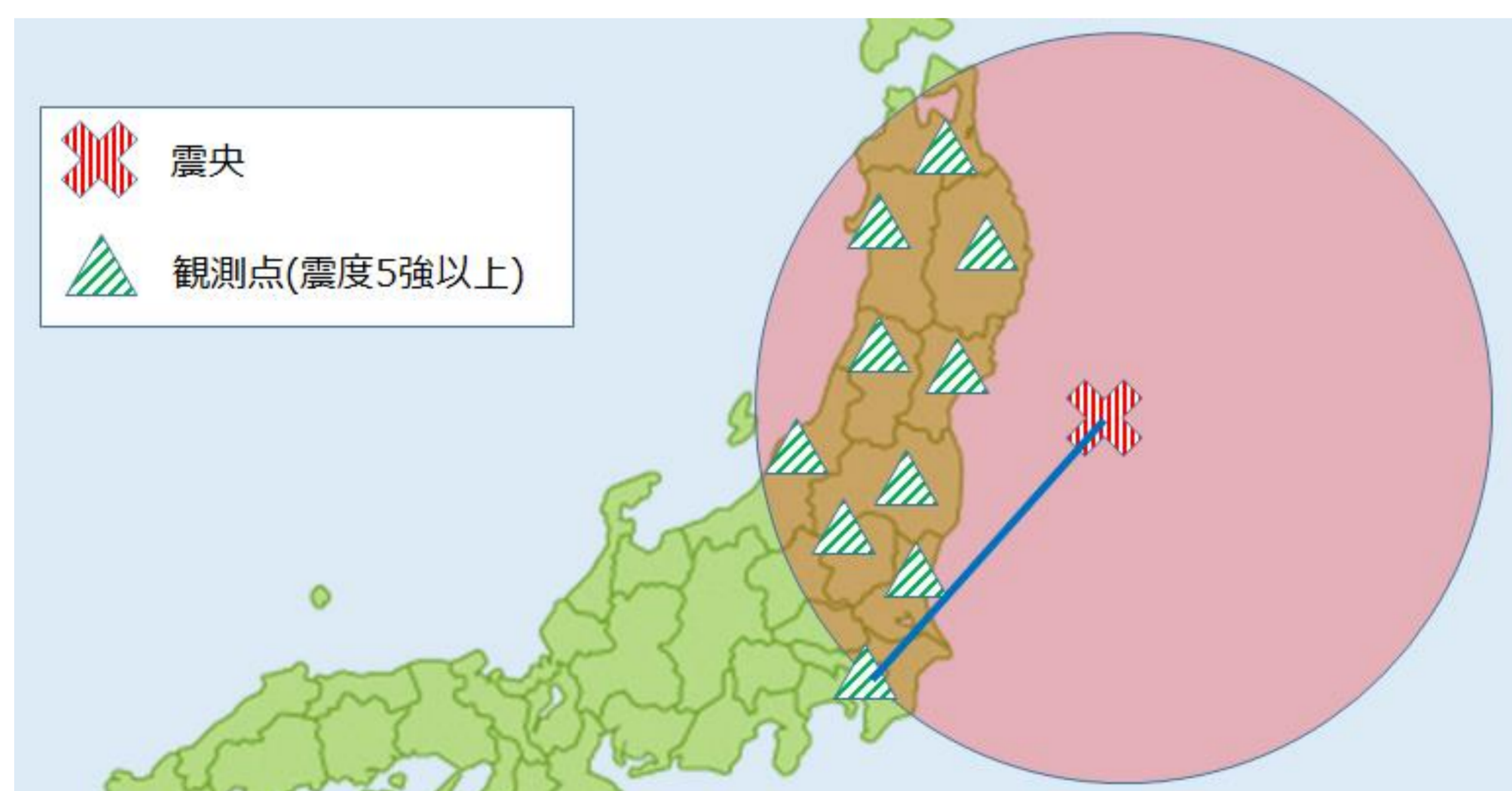
3. TLIFESの安否確認システム

掲示板の画面にて家族の安否状況を瞬時に知ることができる。スマートフォンから取得したユーザの位置情報を利用する。サーバに情報が蓄積されているため、直近の位置情報が分かる。安否入力画面に移行することにより、自身の安否状況を家族に知らせることができる。



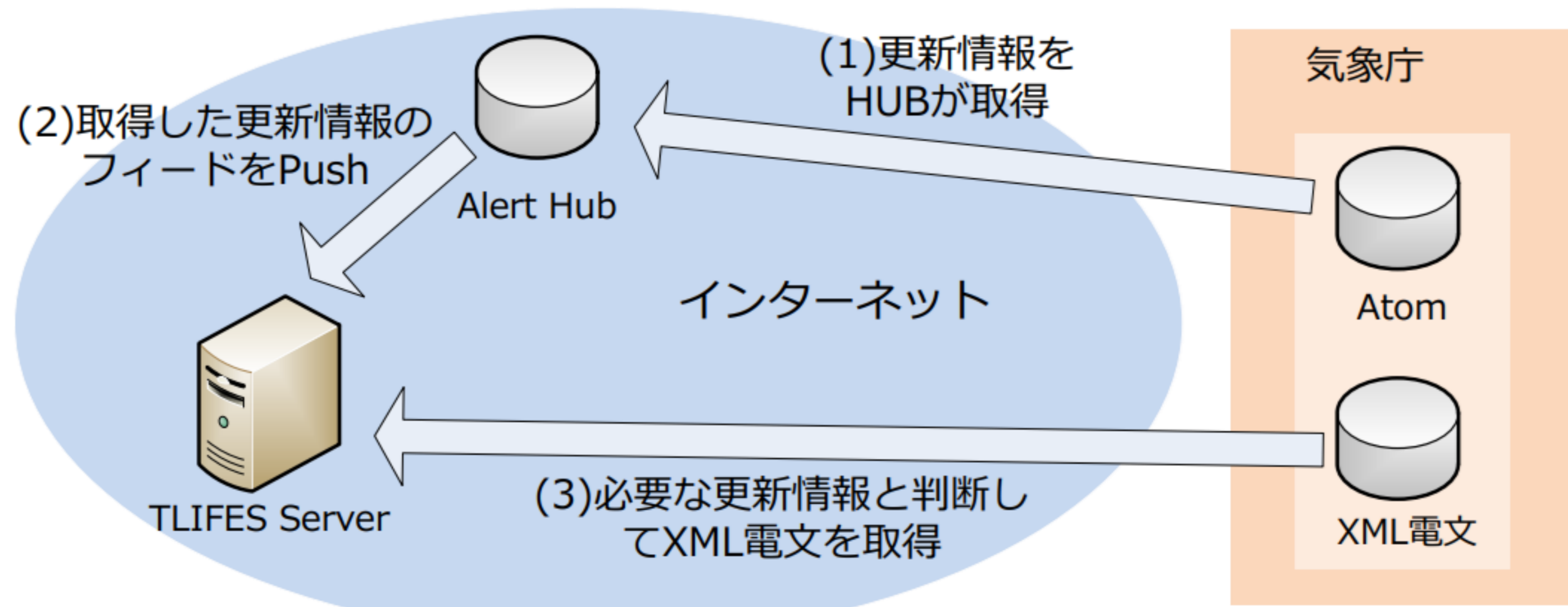
4. 掲示板の自動立ち上げ

災害による影響を受けた可能性のある人を含む家族に対して、掲示板の立ち上げを自動的に行う。自動的に掲示板を立ち上げるエリアを被災地周辺(震度5強以上が観測されたエリア)に限定する。



5. 気象庁XMLファイルの取得

気象庁は、災害情報XMLファイルを配信している。ユーザが用意するのはTLIFES Serverのみである。Alert Hubは、Google.orgが提供している。



6. 評価

	災害伝言板	Googleパーソンファインダー	提案手法
即時性	×	×	○
操作性	△	△	○
プライバシー	△	×	○
事前準備	○	○	△
自動立ち上げ	×	×	○